

「農業体験を含む意見交換会」開催概要 ～食の大切さを農業とともに考えよう～

【日 時】平成 23 年 11 月 19 日（土）9:00～14:00

【場 所】徳島県勝浦郡勝浦町坂本字宮平

農村体験型宿泊施設「ふれあいの里さかもと」

【参加者】7名（徳島大学学生・助教・行政）

【主 催】中国四国農政局徳島地域センター

【概 要】

1. 開 会

総括農畜産安全管理官 鳥越一義

2. あいさつ

総括管理官 佐柳恒雄



3. 農業体験（雨天のため中止）

4. 加工実習（こんにゃく作り）



5. 意見交換会

《主な意見》

○大学生を対象に食育サークルでの活動を行っているが、栄養学科自体で食育を盛り上げていこうという流れがない。大事だとわかっているながらオプション的な感じで食育を考えているところがあるのでやりにくいことがある。行政や農業関係者等と関係を築いて食育活動を広げていくことが重要だと思う。

○保育園では、昔に比べると食に対する意欲の少ない児童が増えている気がする。3歳児ぐらいから食の大切さを少しずつ教えているが、家庭での食育も大事だと思う。

○栄養学科が医学部の中にあるため、医療系の栄養について力を入れている。栄養教諭のコースはあるが選択しづらい状況にあるため、まだまだ手探りで食育活動をしている。

○子どもの場合、親が食育に興味があれば農業体験等に積極的に参加するので食の大切さがわかっている。親の関心によって差ができる。子どもたちみんなにわかってほしい

いことがなかなか伝わらない。

- 学校や保育所・幼稚園での体験が大切で、実際に体験したことは印象に残ると思う。
- 野菜嫌いの子が農業体験をしたことで、栽培した野菜を食べることができるようになったとか、食べ物に対して愛情を持つことができたということを聞いたことがある。体験することの大切さがよくわかった。
- 学校で食育をすることが大切だが、田舎の小さな学校では、地域も家庭も協力して食育を行っているが、市内の大きな学校では、栄養教諭の方の負担が大きく、なかなかできないというように地域によっても差がでている。
- 地域の差をなくすには、学校だけでなく、市町村や JA 等でも取り組む必要がある。実際にいろいろな農業体験の取組はあるが、参加する人が限られてしまっているのなかなか底辺が広がらない。
- 県内にある大学の栄養学科の学生で連携をとって、食育に対する情報交換の場を持つことも必要。興味のある人がばらばらで活動するよりも連携して活動する方がよいと思う。



《昼 食》

郷土料理（地元産の食材）
自作のこんにゃくのさしみ

6. 農業体験指導者との意見交換

「農業の現状について」坂本グリーンツーリズム運営委員会 東山 倍彦氏

《講演内容》

- 勝浦町のさかもと地区はみかんの発祥の地だと言われている。
- 外国からのいろいろな果物の輸入や消費者の嗜好の変化によって、昔と比べるとみかんの消費量はどんどん減ってきていている。また、加工品（ジュースなど）についても外国産が主流になってきている。
- 加工原料用みかんについては、1キロあたり4～5円にしかならないため、農協への出荷よりも、個人で産直市等に出荷する人が増えてきている。
- ハクビシン・鹿・猪等の獣被害が年々、増加している。山奥で生活していた動物た

ちが低いところまで降りてきて、勝浦町内で大きな被害を及ぼしている。

- 農業については、収穫も大切だが、収穫に至るまでの過程が大切。
- 後継者については、勤めていた者が定年後に農業を継ぐという現状で、なかなか引き継ぐことが難しい。

《なお、雨天のより農業体験が中止になったため、東山氏のご好意により、室内でみかんの収穫体験を行った。》



《まとめ》 総括管理官 佐柳恒雄

食のもとは農業。子どもたちにも農業の大切さを伝えることは重要である。また、後継者等の苦労はあるが、農業は苦労だけではなく、収穫の喜びというすばらしいものもある。体験を通じて理解していただきたい。

消費者と生産者が今回のような体験を通じて、お互いに理解を深めていただきたい。行政としても両者を取り次げるようにしていきたい。

6. 閉会

総括農畜産安全管理官 鳥越一義